

2023（令和5）年度以降入学者対象

副専攻ガイドブック



三重大学 共通教育

<https://www.ars.mie-u.ac.jp>

はじめに — 副専攻制度とは

現代社会は多様な価値観に基づく複雑な社会です。卒業後にこうした社会で活躍するためには、所属する学部・学科・コースのカリキュラムに基づく専攻（主専攻）を学びつつ、それとは異なる視点の講義を履修し、幅広い教養と多面的な見方を学んでおくことが大切です。多くの先進的な大学では、主専攻とは異なる専攻（副専攻）を修得できるプログラムを開設していますが、三重大学では共通教育の教養基礎科目（副専攻科目）の中から関連する分野の講義を一定数修得することで、その分野の副専攻修得が認定されます。

ここでは Q&A 形式で簡単に三重大学共通教育副専攻制度を概観しておきます。

Q：副専攻分野はいくつありますか？

A：歴史・文化分野、環境・科学分野、健康・医療・福祉分野、教育・公共分野、社会・経済分野、国際・外国語分野の6分野です。

Q：副専攻修得は卒業するために必須ですか？

A：副専攻の修得は任意です。また、修得の要件を満たしていても、申請しなければ認定されません。

Q：副専攻の修得には何単位必要ですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の同一分野から10単位以上を修得していることが認定の要件です。

Q：どの科目がどの分野に属しているのかは、どこを見たら分かりますか？

A：このガイドブックの科目一覧や「共通教育履修案内」で確認してください。また、教養基礎科目（副専攻科目）のシラバスには副専攻分野の記載があります。

Q：複数の分野に同じ科目名の講義があるのはなぜですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）は、学際的な異分野連携の科目が多く、複数の副専攻分野に登録されている科目があります。

Q：複数の分野の副専攻を修得することはできますか？

A：可能です。ただし、複数の分野に登録されている科目は、一つの分野の申請にしか使えません。

Q：何年生で副専攻の修得が可能ですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の履修のペースは学部・学科・コースによって異なりますが、副専攻を申請する時期は全学共通で2年生終了時点（またはそれ以降）としています。これは、主専攻の基礎となる講義の履修が済んでから副専攻の認定を受けることが望ましいからです。

教養基礎科目（副専攻科目）の履修と副専攻制度

三重大学の共通教育は「大学基礎科目」、「教養基礎科目（副専攻科目）」、「専攻基礎科目」からなります。この冊子では、副専攻制度の対象となる「教養基礎科目（副専攻科目）」について、詳しく説明します。ただし、学部・学科・コースによっては、「専攻基礎科目」の中に「教養基礎科目（副専攻科目）」の科目が指定されている場合があります。それらは学部・学科・コースで主専攻の基礎となる科目として指定されているものなので、副専攻の修得単位としては認められません。「専攻基礎科目」については「共通教育履修案内」にある各学部・学科・コース別の履修単位表でよく確認してください。

分類	領域・分野		単位数
大学基礎科目	領域	スタートアップセミナー	2
		キャリア教育	2
		外国語（英語）	4
		データサイエンス	4
		スポーツ健康科学	1
教養基礎科目 （副専攻科目）	分野	歴史・文化	13
		環境・科学	
		健康・医療・福祉	
		教育・公共	
		社会・経済	
		国際・外国語	
専攻基礎科目	学部・学科・コースで指定		4～19

1. 教養基礎科目（副専攻科目）

教養基礎科目（副専攻科目）は多岐にわたる内容の授業が開講されており、大きく次の6分野に区分されます。授業科目によっては複数の分野に位置付けられているものもあります。

また、教養基礎科目（副専攻科目）として開講されている授業は、同一分野の科目を10単位以上修得し、所定の申請手続きを行うことで、当該分野が**副専攻として認定されます**。副専攻は一つの分野に限らず、複数の分野で申請・修了することが可能です。副専攻制度は、専門教育の専攻だけではない幅広い教養を身につけ、柔軟な発想や応用力、総合的理解力を育成することを目的とした制度ですので、各学部の専門（主専攻）とは異なる分野で認定を受けることを推奨します。

なお、副専攻としての教養基礎科目（副専攻科目）の履修および申請は任意です。

(1) 歴史・文化分野

情報化社会の発展に伴って、地域と密接に関わりつつ、グローバルな視点を持って活躍できる人材の育成がますます求められています。そのような人材に必要とされるのが、自国と諸外国の歴史や文化に対する深い洞察です。本分野では歴史、文化、思想、生活をテーマとするバラエティに富んだ授業科目を履修することができます。また、それによって、単一の価値観のみにとらわれない、豊かな発想と広い視野を獲得することを目指します。

哲学A	日本史資料学	文化と空間B
哲学F	日本文化論A	言語学A
哲学G	日本文化論B	言語学F
哲学H	西洋史A	日本学
哲学I	西洋史B	三重学1
倫理学A	西洋史C	P B L 数理科学
倫理学B	東洋史A	物理学1
倫理学F	東洋史B	生物学1
倫理学G	東洋文化史	自然科学概論1
倫理学H	演劇入門	P B L 自然科学概論
倫理学I	日本文学A	環境科学1
宗教学A	日本文学B	音楽文化論
宗教学B	日本文学C	日本理解特殊講義1
宗教学C	日本語学A	日本理解特殊講義2
宗教学D	日本語学B	現代社会理解特殊講義4
日本考古学A	比較文化論	国際理解実践1
日本考古学B	文化人類学A	国際理解特殊講義1
日本史A	文化人類学B	国際理解特殊講義2
日本史B	人文地理学A	国際理解特殊講義3
日本史C	人文地理学B	現代科学理解特殊講義1
日本史D	人文地理学C	P B L 現代科学理解特殊講義1

(2) 環境・科学分野

環境問題は様々な分野に関わる複雑な問題です。解決の糸口を得るためには、問題の本質を理解し、複合的な視点から洞察する力が必要です。また、環境問題に限らず、健康管理、原子力など科学技術的側面を持つ問題、社会的問題についても、数理科学、物理学、化学、生物学をはじめ、自然科学諸分野の知見に基づいて判断する力が必要です。そこで、本分野では環境問題や様々な自然科学の基礎理解を深め、科学的な考え方を習得します。

スポーツ健康科学概論	数理科学 I	環境地理学 A
P B L アカデミック・ライティング	P B L 数理科学	環境地理学 B
哲学 I	物理学 1	環境地理学 C
経済学 F	物理学 2	環境科学 1
経済学 G	化学 A	環境科学 2
三重学 2	化学 B	科学的地域環境概論 I
情報科学 A	生物学 1	科学的地域環境概論 II
情報科学 B	生物学 2	生物資源学 A
情報科学 C	生物学 3	生物資源学 B
情報科学 D	生物学 4	地域防災論
データサイエンス III	自然科学概論 1	防災論
数理科学 A	自然科学概論 2	日本理解特殊講義 1
数理科学 B	自然科学概論 3	現代社会理解特殊講義 1
数理科学 C	P B L 自然科学概論	現代社会理解実践 1
数理科学 D	医学医療 A 2	現代科学理解特殊講義 1
数理科学 E	医学医療 B 2	現代科学理解特殊講義 2
数理科学 F	医学医療 C 1	P B L 現代科学理解特殊講義 1
数理科学 G	環境学 A	P B L 現代科学理解特殊講義 2
数理科学 H	環境学 F	P B L 現代科学理解特殊講義 3

(3) 健康・医療・福祉分野

人体の仕組みと働き、疾患のメカニズム、医学・医療の発展、健康管理、保健衛生、社会保障など、健康・医療・福祉を多面的な観点から理解することにより、深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養するとともに、自律的・能動的な学修姿勢の醸成、地域活性化・グローバル化に対応できる力を育成します。また、スポーツ実践を通して他者との豊かなコミュニケーションを図るとともに、スポーツ科学や健康学の知見に基づいて、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

スポーツ健康科学B スポーツ健康科学概論 PBLアカデミック・ライティング こころのサポート 心理学A 心理学F 経済学B 三重学2 化学A 化学B	生物学2 入門生物学 自然科学概論2 医学医療A1 医学医療A2 医学医療B1 医学医療B2 医学医療C1 医学医療C2 医学医療D	医学医療E 医学医療入門 国際保健と地域医療 PBL医学・看護学 環境学F 環境科学2 生物資源学B 日本理解特殊講義3 現代社会理解実践2 PBL現代科学理解特殊講義3
---	---	--

(4) 教育・公共分野

個の成長を支え幸福を追求し、ひいては社会を維持し発展させていくための教育の諸問題を理解するためには、哲学、心理学、社会学、医学、数理科学などの幅広い知識を習得することが必要です。また、異なる考えや価値観の人たちが、どのように合意を作り解決していくかという公共の諸問題を理解するためにも、同様のことがいえます。本分野では、教育と公共の現代的諸問題に対応し解決を図ろうとする態度を、知識習得と探求・議論を往復する対話的で深い学びによって身につけていきます。

スポーツ健康科学概論 こころのサポート 心理学A 心理学F 法学A 法学C 法学F 法学G 政治学B 政治学F 政治学G PBL政治学2 経済学B 経済学G 人文地理学A 人文地理学B 人文地理学C 文化と空間A 文化と空間B 文化と空間C 三重学1 地域学 情報科学A 情報科学B 情報科学C 情報科学D 数理科学A	数理科学B 数理科学C 数理科学D 数理科学E 数理科学F 数理科学G 数理科学H 数理科学I 物理学1 物理学2 化学A 生物学1 生物学2 生物学3 自然科学概論2 自然科学概論3 医学医療A2 医学医療B2 医学医療C2 医学医療D 医学医療E 医学医療入門 環境学A 環境学F 環境地理学A 環境地理学B 環境地理学C	環境科学1 科学的地域環境概論I 科学的地域環境概論II 生物資源学A 地域防災論 日本理解特殊講義1 日本理解特殊講義2 日本理解特殊講義3 日本理解特殊講義4 現代社会理解特殊講義1 現代社会理解特殊講義2 現代社会理解実践2 現代社会理解実践3 国際理解実践2 国際理解特殊講義1 国際理解特殊講義2 国際理解特殊講義4 国際理解特殊講義5 PBL現代科学理解特殊講義3 インターシップ入門 ピアサポート実践 学習支援実践 学生生活支援実践 ビジネスキャリア入門 社会連携型実践 知財学
---	---	---

(5) 社会・経済分野

国際社会に対応できる能力を育成するために、社会・経済に関する様々な事柄を学びます。社会は、異なる価値観を持った多数の人が集まって形成されます。家族、労働、教育、地域社会、メディアなどの多くのテーマについて学びます。また、私たちが生活する上で問題となる、生産や消費売買などの経済活動について学びます。

PBLアカデミック・ライティング 西洋史C 比較政治文化 心理学A 心理学F 日本国憲法 法学B 社会学A 社会学B 政治学A 政治学B 政治学F 政治学G PBL政治学1 PBL政治学2 経済学A 経済学B 経済学F 経済学G 人文地理学A 人文地理学B 人文地理学C	文化と空間A 文化と空間B 文化と空間C 三重学1 三重学2 情報科学A 情報科学B 情報科学C 情報科学D 数理科学H 数理科学I 物理学2 自然科学概論3 PBL自然科学概論 医学医療C2 環境学A 環境地理学A 環境地理学B 環境地理学C 環境科学2 科学的地域環境概論I 科学的地域環境概論II	生物資源学A 地域防災論 日本理解特殊講義3 日本理解特殊講義4 日本理解特殊講義5 現代社会理解特殊講義1 現代社会理解特殊講義2 現代社会理解特殊講義3 現代社会理解特殊講義4 現代社会理解実践1 国際理解実践1 国際理解特殊講義4 現代科学理解特殊講義1 PBL現代科学理解特殊講義1 インターンシップ入門 ピアサポート実践 学習支援実践 学生生活支援実践 ビジネスキャリア入門 社会連携型実践 知財学
--	--	--

(6) 国際・外国語分野

異なる文化や言語を持つ人々と深く交流するには、その背景にある価値観に興味と関心を持ち、尊重することが求められるとともに、自身の主張を明確に伝える語学力とコミュニケーション力が必要になります。本分野では、様々な語学をはじめ、政治経済、教育、保健医療などのテーマにも関わる授業を通して、国際理解のための技能と知識を身に付け、演習などを通じて情報収集・伝達や相互理解の方法を実践的に学ぶことで、多様な文化・言語を背景とする人々と協働する力を涵養します。

英語 I TOE I C	国際理解特殊講義 2	ロシア語 I B b
英語 I 初級 TOE I C	国際理解特殊講義 3	スペイン語 I A a
英語 II 発展 A a	国際理解特殊講義 4	スペイン語 I A b
英語 II 発展 A b	国際理解特殊講義 5	スペイン語 I B a
英語 II 発展 B	ドイツの文化	スペイン語 I B b
英語 II 発展 C	ドイツ語 I A a	ポルトガル語 I A a
英語 II 発展 D	ドイツ語 I A b	ポルトガル語 I A b
英語 II 発展 E	ドイツ語 I B a	ポルトガル語 I B a
宗教学 A	ドイツ語 I B b	ポルトガル語 I B b
法学 F	フランス語 I A a	ドイツ語 II 総合 a
政治学 G	フランス語 I A b	ドイツ語 II 総合 b
P B L 政治学 1	フランス語 I B a	ドイツ語 II 演習 a
経済学 A	フランス語 I B b	ドイツ語 II 演習 b
言語学 F	中国の文化	フランス語 II 総合 a
地域学	中国語 I A a	フランス語 II 総合 b
生物学 4	中国語 I A b	フランス語 II 演習 a
医学医療 E	中国語 I B a	フランス語 II 演習 b
国際保健と地域医療	中国語 I B b	中国語 II 総合 a
日本理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I A a	中国語 II 総合 b
日本理解特殊講義 5	朝鮮・韓国語 I A b	中国語 II 演習 a
現代社会理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I B a	中国語 II 演習 b
現代社会理解特殊講義 4	朝鮮・韓国語 I B b	
国際理解実践 1	ロシア語 I A a	
国際理解実践 2	ロシア語 I A b	
国際理解実践 3	ロシア語 I B a	

2. 副専攻の申請時期および留意事項

(1) 申請時期

副専攻認定の申請時期は2年次以降の各学年末です。ただし、最終学年においては前期終了時に申請してください。手続きのしかたはこのガイドブックの“4. 副専攻の申請手続き”を参照してください。

(2) 留意事項

教養基礎科目（副専攻科目）は1～3分野に属しています。複数の副専攻分野を申請する場合は、一つの授業科目は一つの副専攻分野の申請にのみ使用できます。重複履修した授業科目（「共通教育履修案内第2部3. (2)」参照）は、副専攻の申請では一つの授業科目として取り扱われます。

なお、専攻基礎科目として修得した教養基礎科目（副専攻科目）の単位を副専攻の単位に含めることはできません。副専攻の申請に使用できる授業科目は学部・学科・コースによって異なるため、「共通教育履修案内」を参照してください。

また、副専攻の申請は、専攻基礎科目の単位がすべて修得されていないと受け付けられません。

3. 副専攻の認定

申請手続きが完了し、副専攻が認定された場合は、卒業時に三重大学共通教育副専攻修了証が卒業証書とともに授与されます。副専攻修了証の再発行は行いませんので、大切に保管してください。

なお、就職活動等で卒業前に証明が必要な場合は、副専攻修了見込み証明書が発行されますので、そちらを使用してください。副専攻修了見込み証明書の詳細については、moodle コース「共通教育学生掲示板」で改めて案内します。

4. 副専攻の申請手続き

副専攻の申請は2年次以降の年度末(3月)に行ってください。申請期間の詳細は、「共通教育行事予定表」で確認できます(「共通教育学生掲示板」でも周知します)。期間外の申請は受け付けません。

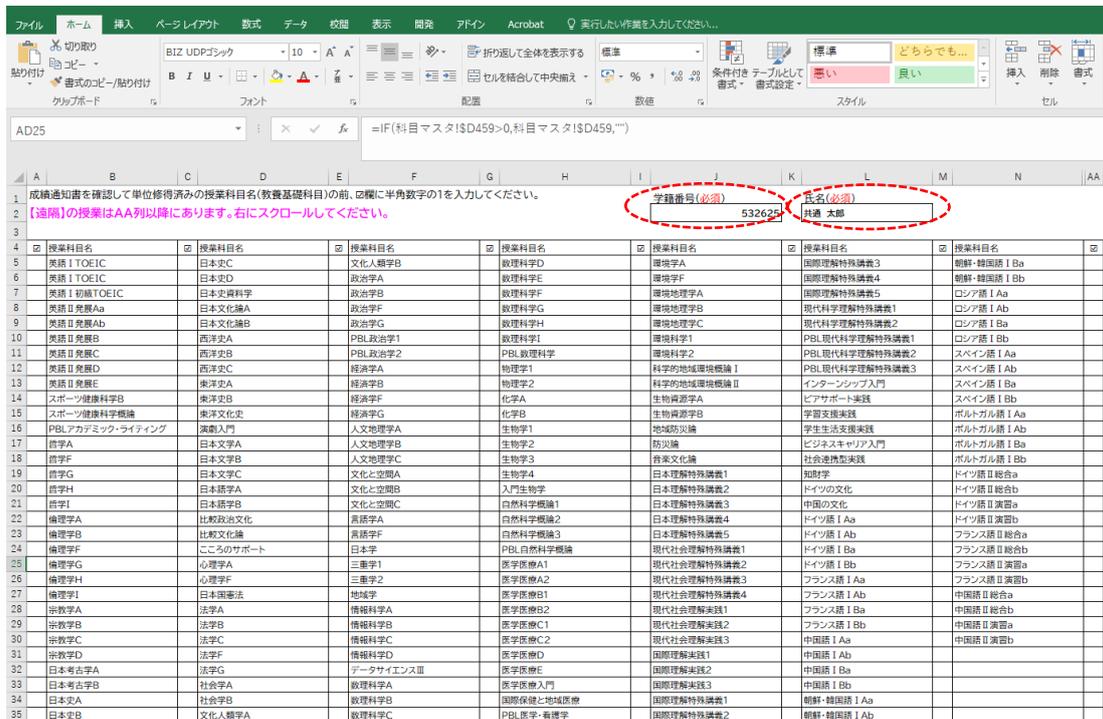
申請は「共通教育学生掲示板」から申請用ファイル(Excel)をダウンロードし、下記の手順にしたがって行ってください。

【申請前の注意】

副専攻の申請は、所属学部・学科・コースの履修単位表の“専攻基礎科目”の単位をすべて修得してから行ってください。“専攻基礎科目”の修得単位が卒業要件を満たしていない場合は、“教養基礎科目(副専攻科目)”を10単位以上修得していても副専攻の修得は認められません。

【手順①】

“修得済み科目入力シート”の上部にある学籍番号・氏名のセルに入力してください。学籍番号は半角数字6桁です。



次に成績通知書を見ながら、単位修得済みのすべての“教養基礎科目(副専攻科目)”のチェック欄に半角数字“1”を入力してください(次ページの図)。「英語 I TOEIC」については、火曜クラスで1単位、木曜クラスで1単位の計2単位をセットで履修しているの、原則として両方に“1”を入力してください。また、成績通知書の科目名に“【遠隔】”が付いている場合は、必ず本シートでも“【遠隔】”が付いている授業科目名のチェック欄に入力してください。間違って選択してしまった場合は、Delete キーで“1”を削除し、選択し直してください。

すべての科目の入力が終わったら、“確認シート”のシートタブをクリックしてください。

【手順②】

“確認シート”には手順①で選択されたすべての科目とその単位数、科目に対応した副専攻分野が表示されています（次ページの図）。

はじめに、表示されている科目の中で“専攻基礎科目”として履修したものを登録します。登録は専攻基礎科目のチェック欄に半角数字“1”を入力して行います。どの科目を“専攻基礎科目”として登録しなければならないかは、所属学部・学科・コースによって異なります。下表もしくは「共通教育履修案内」にある履修単位表で確認してください。

学部	学科・教育コース	登録すべき教養基礎科目（単位数）	該当科目の合計単位数
人文学部	文化学科	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～8）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（8）	10～18
	法律経済学科	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～4）、経済学A～G（2）**、法学A～Gまたは政治学A～G（2）**	6～10** (10～14)
教育学部	数学教育コース	なし	—
	理科教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	0～4
	技術・ものづくり教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～6）	0～6
	音楽教育コース	「音楽文化論」（2）、「演劇入門」（2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	4～8
	学校教育コース（教育心理学）	「心理学A」（2）または「心理学F」（2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～6）	2～8
	英語教育コース	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	2～8
	上記以外の教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）	0～8
医学部	医学科	なし	—
	看護学科	「医学医療C2」（2）、「医学医療D」（2）	4
工学部	総合工学科建築コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）	0～8
	上記以外のコース	なし	—
生物資源学部	全学科	なし	—
		*：ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語のなかで専攻基礎科目として履修したものが対象となります。	
		**：令和6年度以降の入学生対象です。令和5年度入学生は「副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）」を登録してください。	

①入力シートで選択した授業科目の一覧が表示されます。単位取得済みの授業科目に●がないことを確認してください。
 ②単位取得済みの授業科目が副専攻のどの分野に所属しているかが●で表示されています。
 ③副専攻の各分野名称の下には単位が表示されています。右はあなたがこの分野で単位取得済みの授業科目の合計単位数が表示されています。
 ④履修単位表を参照して、所属の学科コースから専攻基礎科目を教養基礎科目から単位取得するように指定がある場合は、専攻基礎科目とする授業科目の「専攻基礎科目」の欄に半角数字の1を入力してください。
 ⑤単位取得済みの授業科目にて、申請したい副専攻分野の●の左の欄に半角数字1を入力して選択します。副専攻の各分野名称の左下に選択中の授業科目の合計単位数が表示されます。10単位以上になるように選択してください。
 ⑥専攻基礎科目とした授業科目を副専攻に選択することはできません。また、一つの授業科目を複数の副専攻分野で選択することはできません。
 ⑦修得済み科目を入力シートに再入力する場合、このシートに表示される授業科目数が変わります。このシート(確認シート)で既に入力した内容が不一致となります。必ず、このシートの空欄の半角数字の1を全て消してから操作してください。

7	授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
				計	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中		修得済
				4	0	10	0	8	0	3	0	4	0	10	0		4
11	英語 I TOEIC	1															
12	英語 I TOEIC	1															
13	スポーツ健康科学B	1						●									
14	PBLアカデミックライティング	2					●					●					
15	哲学F	2		●													
16	宗教学D	2		●													
17	西洋史B	2		●													
18	演劇入門	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
19	比較文化論	2		●													
20	日本国憲法	2										●					
21	物理学2	2				●				●		●					
22	地域防災論	2				●				●		●					
23	音楽文化論	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
24	PBL現代科学理解特殊講義1	2		●		●						●				10単位数以上で選択されています	
25	中国の文化	2											●				

上の図は教育学部・音楽教育コースの例で、「演劇入門」と「音楽文化論」に“1”を入力し、専攻基礎科目として登録しています。

次に、各分野の“修得済”の欄を確認します。10単位以上であれば、その分野を副専攻として申請できます。上の図では、歴史・文化分野もしくは社会・経済分野で副専攻を申請できることが判ります。次に、申請する分野を決めて、申請に使う科目の“選択中”の欄に“1”を入力してください(下図)。一つの科目は一つの分野の申請にしか使えないので、この例では歴史・文化分野の申請のために「PBL 現代科学理解特殊講義1」をチェックすると、社会・経済分野で同科目を選択することはできなくなります。

7	授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
				計	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中		修得済
				4	10	10	0	8	0	3	0	4	2	10	0		4
11	英語 I TOEIC	1															
12	英語 I TOEIC	1															
13	スポーツ健康科学B	1						●									
14	PBLアカデミックライティング	2					●					●					
15	哲学F	2		1	●												
16	宗教学D	2		1	●												
17	西洋史B	2		1	●												
18	演劇入門	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
19	比較文化論	2		1	●												
20	日本国憲法	2										●					
21	物理学2	2				●				●		●					
22	地域防災論	2				●				●		●					
23	音楽文化論	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
24	PBL現代科学理解特殊講義1	2		1	●		●					●				10単位数以上で選択されています	
25	中国の文化	2											●				

